

## 「24 年前のワープロ復活 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ものの整頓や片付けをしていると、意外なものに「再会」することがある。先日も、押し入れの中を「断捨離」していたら、すばらしい機器に再会できた。



何と「ワープロ」である。パーソナルコンピュータが、一般に普及する前の平成の始め頃に、爆発的に流行していた、文書作成ツールの一つだ。文書作成、保存、印刷まで一台でこなすところがすばらしかった。私の職場でも、管理職から「新入社員」まで、一人一台持っていたように記憶している。それも職場で支給されたものではなく、各自が自前で買って使っていた。



このワープロは、恐らく私が最後に購入したもので、使っていたのは平成一桁の時代だったと思う。いわば、「20 世紀の遺産」とでもいふべき記念品だ。NEC の「文豪ミニ」というシリーズの一機種である。



もう使えないとは思いつつも、まずは「観察」してみた。記憶媒体はもちろんフロッピーディスクである。記憶容量はわずか 1MB 程度なので、今ではデジカメの写真 1 枚ですら保存できない容量だ。



タッチペンもついている。マウスがない代わりに、画面をタッチして操作できたらいい。これも使った記憶がある。



フロッピーディスクドライブの逆の側面には、ビデオ入力端子もついている。これで動画や静止画もとりにこめたらいい。私が大学生の頃 (1980 年代) の初期のワープロは、文書を作成するだけのもので、キーボード上のディスプレイも、文書が 3 行しか表示できず、「大きな電卓」みたいな感じだった。どうやらこの機種は相当に進化したもので、あらゆる機能を凝縮した、「ワープロ最終モデル」だったようである。